

まちづくり

町政執行方針



厚岸町長
若狭 靖

重点政策と予算状況

一年間のまちづくりの方針を示すのが町政執行方針です。

そして、それを実行するために必要なのが予算です。

その内容を審議する町議会第1回定例会が3月7日から16日まで開かれ、予算案などが議決されました。

今月号では、若狭靖町長が初日に行った町政執行方針、富澤泰教育長が行った教育行政執行方針、そして平成28年度予算の概要をお知らせします。

はじめに

平成28年厚岸町議会第1回定例会の開会にあたり、町政執行に関する私の所信を申し上げます。

私が厚岸町長として、初めてこの議場において、平成14年度の町政執行方針を述べてから、本年度15回目となります。

この間における町政の執行の道のりは、決して平坦なものではありませんでしたが、一步一步、着実に成果を上げてこられたのも、町民の皆さんならびに町議会議員の皆さんの温かいご支援とご理解の賜と、あらためて深く感謝申し上げます。

今、厚岸町は大きな変化のうねりの中にいます。本年からのロシア200海里水域におけるさけ・ます流し網漁の禁止、ならびに、先般、我が国を含む加盟国が調印した環太平洋経済連携協定、いわゆるTPPなど、本町に大きな影響が及ぶことが想定される課題が目の前に立ちはだかっています。

しかし、我々は、これら目の前の壁に果敢に立ち向かうための知恵と勇気と力を有しています。第一次産業の元気なくして厚岸町の発展はあり得ません。これまで漁業と農業を基幹産業として発展してきた厚岸町にとって、これらの産業を持続的に発展させることが、この豊かな地域、活力ある産業、そして町民の皆さんの幸せな将来を守り続けることになると確信しています。そのためには、地域が一体となつて今

できる精一杯のことに全力で取り組み、厚岸町の未来を切り開いていかなければなりません。

現在、全国的に『地方創生』の取り組みが進められています。厚岸町においても、人口減少を抑制し、確かな未来を築き上げていくため、人口の将来展望を示す『厚岸町人口ビジョン』と具体的な施策や取り組みを示す『厚岸町未来創生総合戦略』を3月中旬に策定し、平成28年度から本格的に取り組みます。この総合戦略では、まちの元気の源である第一次産業の振興や、将来を担う子どもたちへの支援を、より重点的に取り組む必要があると考えており、これらを含む総合的な施策展開によって、未来への確かな道筋を示すことができると確信し、全力を尽くす決意です。

主要な施策の推進

平成28年度において取り組む主要な施策の推進については、第5期厚岸町総合計画の5本のまちづくりの柱に沿って進めます。

自然との調和を大切にしながら、快適で安全なまちづくり

ラムサール条約登録湿地としてその



き続き計画的な施設整備を進めるとともに、良質な原水確保するため、水源かん養林の取得や北海道の条例に基づく水資源保全地域指定に向けた取り組みを継続します。また、太田・片無去地区において利用可能な新たな地下水源の調査を実施します。

本年度は、平成24年度に改定した水道料金の算定期間の最終年度にあたります。減少する収益と増加する費用で事業経営はますます厳しくなる中、一層の経営改善に取り組み、前回改定時に残された課題を勘案しながら、料金見直しの検討を進め、水道事業の健全な経営に努めます。

太陽光などの再生可能エネルギーについては、環境負荷の少ないエネルギーとして重要性が増していることから、住宅太陽光発電システム設置奨励事業を継続します。

また、一層の環境への負荷の軽減を図るため、町有施設の省エネルギーを推進するとともに、一般家庭などにおける省エネルギー意識・行動の啓発に努めます。

水道事業については、将来にわたり安全な水を安定的に供給するため、引



また、現在、衛生センターで処理しているくみ取りし尿等を、下水道終末処理場に受け入れ、一元処理する施設を完成させるほか、公共下水道による整備を予定していない地区での個人による合併処理浄化槽設置に対する支援を継続し、生活排水処理施設の整備を推進します。

高速道路の整備促進については、3月12日に道東自動車道白糠インターチェンジから阿寒インターチェンジまでの区間と、釧路外環状道路釧路西インターチェンジから釧路東インターチェンジまでの区間が開通します。

こうした中、昨年11月に開催された『道東自動車道シンポジウム in 厚岸』に、700人を超える参加者があり、釧路より東へ進む高速道路の整備に対する町民の皆さんや関係者の強い期待を実感したところです。

国への要望活動の主体である北海道横断自動車道釧路・根室間建設促進期成会では、沿線住民アンケート調査を踏まえ、釧路・根室間119キロのうち、優先的に整備を要望する区間として、津波浸水予想区域がある厚岸町尾幌から糸魚沢間の27・5キロを選定しました。町としては、こうした地域の声を国へ届け、経済の活性化や防災対策などの効果が期待される高速道路整備を実現するため、関係市町村や団体との連携のもと、要望活動を強化します。

町道の整備については、苦多道路の法面改修と湾月町通りの歩道整備を完了させるほか、太田門静間道路と床潭

末広間道路の整備、厚岸駅構内人道路線橋の改修、松葉町通りのほか、路面の損傷が著しい箇所オーバーレイを継続するとともに、新たに宮園町東4の通りを整備します。

また、太田地区の冬期間の交通障害対策として、防雪柵整備に向けた実施設計を行います。

鉄道やバスの公共交通については、JR北海道の花咲線が3月26日以降、上下線合わせて5便が減便となりますが、高齢者や障がい者などの移動手段としての公共交通の役割は大きいことから、関係機関と連携して安全で安心な公共交通の維持・確保に努めるほか、スクールバスの町民利用を引き続き全路線で実施します。

住環境については、住宅の省エネ・バリアフリー改修やリフォーム、新築に対する支援を継続します。